

平谷こども発達クリニック 松村友宇子さん

TEL.0776-54-9600

住所 福井市北四ツ居2-1409



【Profile】

平成 11 年 東北大学大学院教育学研究科修士課程卒業
情緒障害児短期治療施設、保育所に勤務

平成 19 年 平谷こども発達クリニックに勤務(非常勤)
自身も2歳～12歳まで5人の子がいるお母さん。
只今、子育て奮闘中!

教えてDr.

子どもの 発達障害

幼児期のなかごろくだだこねを通して

2・3歳の子を持つお母さんから、だだこねへの対応をよく相談されます。「○○シタイ!」「ヤダー!」を連発し、下手に手を出すと「ジブンデ!」と怒る…。だだこねに付き合うのはとてもしんどく、早く解決する方法はないかと考えてしまいます。

でも、発達のプロセスが大切。だだこねにも大きな意味があるようです。まずは、自我の育ちです。前回、育ちの基本は、子ども達が外の世界に興味をもち働きかけていく力だと書きましたが、まさにその力が強まっている証拠。だだこねへの対応は、主人公である子どもの様子を見つめ、行動の理由を予想し、対応を試してみることに積み重ねます。例えば、

・自分で決めたいから?

もっと選択肢を出して選はせてみようか。

・だだをこねたら思い通りになると思ってる?

その手にはのらない。我が家のルールを教えてあげるね。

・めっちゃこだわっている何かがあるってこと?

それをみつめてあげようかな。

・眠いのかも?

何をしてもダメだなあ。

寝るしかない!

他にもたくさんさんのアイデアがあることでしょう。うまくいかないことも多いかもしれませんが、その分子どもが「ウン!」と言ってくれた時はとても嬉しくなります。

4・5歳になると、徐々に「○○ダケレドモ、○○ダ」、自分はこうしたいけどちょっと我慢するという場面が増えてきます。

それは一度にできるようになるわけではありません。人と関わる中で、好きなことやできること・わかることが増え、さらに大きい子にあがれ、小さい子や友達を思いやる気持ちが育ってきたからです。またそこには、友達とのぶつかり合いや家族や保母さん方と向かい合った経験も大きく影響します。相手にも思いや自我があること、社会にはルールがあることを知り、少しずつ自分をコントロールできるようになっていくようです。

子どもと向かい合うにはパワーがいります。私も、いらいらして失敗して「まだまだだなあ」と落ち込むこともよくあります。でも、親発達の途中なんだからしょうがない!みなさんも周りの人に相談したり愚痴をこぼしながら、この時期をのりこえていきましようね。